

宝塚市政記者クラブ各位

- 第 4 回支援本部会議について(訂正) -

- 1 開催日時 平成 23 年 3 月 18 日（金） 午後 5 時 30 分から
- 2 場 所 特別会議室
- 3 出席者 別紙参照
- 4 決定事項
 - (1) 岩手県大槌町への物資（特に衣類）の搬送について
現地から衣類の支援要請を受け、ボランティアセンターなどの協力を得て市民から衣類の募集を行い、物資の搬送を行う。
 - (2) 岩手県大船渡市へ災害対応の市民窓口相談マニュアルについて
現地からの連絡より、災害対応の窓口相談のノウハウが無いため混乱していることから、災害対応の市民窓口相談マニュアルを送る。
 - (3) 備蓄物資の被災地への支援量の増について
震災による市備蓄物資量に対する抛割割合を当面 1 割としていたが、5 割に引き上げる。また兵庫県から物資提供の依頼があり、上記の抛出物資の一部を提供する。
- 5 確認及び報告事項
 - (1) 須賀川市へのお見舞いについて
3 月 1 9 日（土）、阪神・淡路大震災の折り、支援を受けた須賀川市に対し、市職員 2 名が空路により、義援金 2,000 万円（目録）を持参する。
 - (2) 被災者向け宝塚市営住宅の一次使用における負担について
被災者の経済的負担を考え、敷金及び家賃減免に加え、その他費用など柔軟に対応する。
 - (3) 「東北関東大震災被災地への支援体制の構築」について
全国市長会・兵庫県知事・兵庫県市長会に対し、早急に各都市が被災地を迅速かつ適切に実施できる体制構築の提案をした。
 - (4) 市職員に対する市長メッセージ
本日、宝塚市長は全職員に対し、別紙のとおり東北関東大震災における被災地支援の協力を要請した。
- 6 問合せ先
事務局 安全安心課
TEL 0797-77-2078（直通）

(別紙)

第4回支援会議出席者名簿

本部長	中川市長
副本部長	坂井副市長
	山下副市長
	伊達教育長
	南上下水道事業管理者
本部長	病院副事業管理者
	企画経営部長
	行政改革担当部長
	総務部長
	市民環境部長
	健康福祉部長
	子ども未来部長
	都市産業活力部長
	都市整備担当部長
	都市安全部長
	消防長
	議会事務局長
	管理部長
	学校教育部長
	社会教育部長
	経営統括部長
会計管理者	

職員の皆さまへ

今日で東北関東大震災から 1 週間が経ちました。この宝塚でも雪が降るほど寒い日々が続いています。被災地では、どれほど寒いか、どんなに不安で辛い日々か、察するに余りある状況です。

今、全国で支援の輪が広がっていますが、私たちのまちは、16 年前の阪神・淡路大震災の被災地です。あの時も真冬でした。被災直後、何が欲しかったか、2 週間後、1 ヶ月後、どのような支援策を行っていたか、被災者は何を求めているか、反省を含めて私たちは知っています。全国からの応援をどれほど心強く思い、嬉しかったか、私たちは今でも忘れてはいません。市民も又、何か出来ないか、と報道を見ながらいてもたってもいられない思いだと察します。その思いを受けて、私は本市として出来る限りの支援をしていきたいと思います。皆さんにお願いしたいのです。

緊急消防救援隊、上下水道局は、直後から要請を受け救援活動を行っています。支援本部は連日会合を持ち、昨日、第 1 陣が救援物資を積み、職員 4 名が 2 台のワゴン車に分乗して岩手県に向かい、市立病院は昨夜、南三陸町に医師 2 名他 4 名が自発的に医療支援で出発しました。

義援金の呼びかけ、励ましの手紙を市民の皆さんにも協力要請しています。国や県の呼びかけだけを待っていたら救援は遅くなります。又、きめ細かく支援していくために避難所に物資のみならず、私たちの心を添えていくことも経験した自治体だからこそ出来ると信じます。

支援に被災地に出向いていく職員の身の安全を第一に考えてスケジュールは組んでいきますが、皆さんの協力を強く求めます。

今後は、被災者の受け入れ、暮らしのサポート等々“支え合いのまち”として全職員一丸となって取り組んでいただきますようお願いいたします。又、市民の皆さんと力を合わせていくことが肝心ですので、その体制作りもしなければなりません。長期間の取り組みになりますので、様々な情報を共有しつつ頑張っていきましょう。

平成 23 年（2011 年）3 月 18 日

市長 中川 智子